

日中両国語の「無」のつく語についての一考察

洪昭鳳

一、始めに

文献によると、元来、日本には文字はなかったといわれ、推古朝に我国―中国から伝入された漢字が日本の文字になり、日本人に使われてきたそうである。八世紀頃はじめて仮名―平仮名、片仮名が作られ、使われるようになった。そういうわけで今日我―中国人にとって日本語をマスターすることは他の国の人よりやや簡単だというのもこの原因であろう。

しかし、すべての日本語の中の漢字、漢語は皆中国語のそれと全く同じであろうかについて、私は疑問を持っている。それで「無」のつく日本語と中国語を対象にして、調査したり、分析したりして来たのである。つまり、その共通な所および異なる所をもう一度検討したいというわけである。

便宜の為に私は以下の二種類の字典――①学研刊金田一春彦編の国語大辞典と②光生館刊香坂順一編の現代中国語辞典を使って、中日両国語の「無」のつく語を対照しながら、研究を進めることにする。

二、日中両国語の「無」のつく語集の品詞分類

学研国語大辞典に出てくる「無」のつく日本語は凡そ二百語ぐらいである。この中に品詞はどういう状態を呈しているかについて、調べた結果は次のようである。

品 詞	数 量	順 序	品詞の比率
名 詞	125	1	62.5 %
名詞・形容動詞	70	2	35 %
副 詞	2	4	1 %
名詞・サ変動詞	3	3	1.5 %
総 語 数	200		

(表一)

ご覧のとおり、名詞が一番多く、次に名詞・形容動詞、副詞、名詞・他動サ変動詞という順になっている。

注目されるのはその中に形容詞という品詞はなかなか見出すことができず、逆に名詞・形容動詞という品詞は大部分を占めているのである。この現象は形容詞と形容動詞の起源とその由来にかかわりがあるのではないかと思われる。形容詞は大抵和語であるのに対して、形容動詞の大部分は漢語をそのまま転用してきたものである。それで、「無」のつく語はほとんど漢語に属するから、自然に形容動詞に属する

のも沢山出てくるわけである。なお、一つの語には同時に二つの働きを持つという場合がある。言い換えれば、つまり同時に名詞と形容動詞に属するということである。

では、中国語の「無」のつく語はどうであらうか、まず、品詞分類から見ると、次の表のようである。

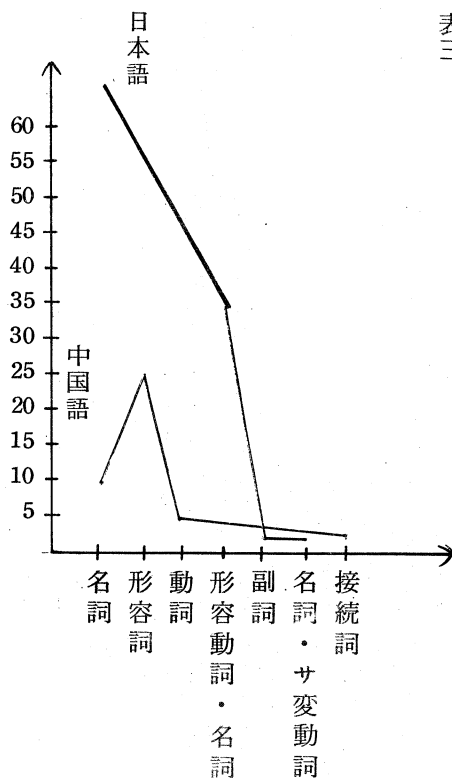
品 詞	語 数	順 序	品詞の比率
名 詞	31	3	12.7%
形 容 詞	79	1	32.3%
動 詞	24	4	9.8%
成 語	61	2	25 %
連 語	25	5	10.2%
副 詞	16	6	6.5%
諺と熟語	7	7	2.8%
接 続 詞	1	8	0.4%
総 語 数	244		

(表二)

御覧のように一番多いのは形容詞で、次は成語、名詞、動詞、連語、副詞、諺と熟語、接続詞などという順である。

しかし中国語の成語、諺と熟語、連語というものは、日本語にはないようだから、便宜を図って、これらを取り除き、ただ名詞、動詞、形容詞、接続詞、副詞など主な品詞を取り出し、比較する。その結果は表三である。

表三



表三を見て、日本語の「無」のつく語の中に名詞が一番多いけれども、中国語には形容詞が一番多いということがはっきり分かる。同じ「漢語」でありながら、なぜ日中両国語の品詞認定がそれほど違うのか、それから、その移り変りの動きがどうであらうかという問題の検討が必要となる。検討に入る前にまず表四を見ておこう。

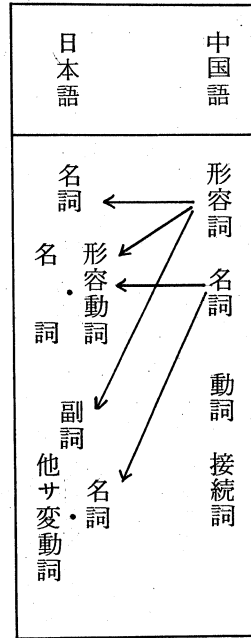
品 詞	語 数	比 率
漢 語	175	88.5%
和製漢語	25	12.5%
総 語 数	200	100 %

(表四)

つまり、日本語にあり、中国語にもある語は一百七十五語あるが、

中には中国語にない語は二十五語ある。言い換えれば、八十八パーセントぐらいの「無」のつく語は、中国人には分るが、その十二点五パーセントの語は分らないのである。即ち二百語の中には日本人の作った和製漢語が二十五語ぐらい入っているというわけである。

というわけで、またこれらの和製漢語を取り除を、残された語を一旦中国語と対照比較して、その品詞の移り変りを追究し、その結果は表五である。



(表五)

表五に示したとおり、中国語の形容詞は日本語に取り入れられて、名詞、形容詞・名詞、副詞に変わり、名詞は名詞、形容動詞・名詞、名詞・サ変動詞に変わるという現象が見られる、その現象の分布状況は表六、表七のようである。

日本語	中国語	語 数	比 率
日本語の形容動詞	形容詞	39	72.2%
	動 詞	4	7.4%
	名 詞	11	20.3%
語 数		54	

(表六)

日本語	中国語	語 数	比 率
日本語の名詞	形容詞	55	53.9 %
	動 詞	8	8.13%
	名 詞	39	38.2 %
語 数		102	

(表七)

三、反対語から見る日本語の「無」のつく語

反対語というのはある語と正反対の関係、意味を持つ語である。例えば「無」に対する「有」はこれである。

さて、日本語の「無」のつく語を大きく分けて、三大種類にした。則ち：「無独立形P」と「無・擬独立形P」の二種類である。例をあげてみよう。

- (A) 無・生物——「生物」は独立できる語である。
- (B) 無・神論——「神論」は独立できない語である(表八をご参照)
- (A)をさらに以下の五種類に分ける。則ち：
 - ① 無P (注一) な↓P な
 - ② 無P な↓P がある、P する
 - ③ 無P な↑有P な
 - ④ 無P な↓SP な、PS な(注二)
 - ⑤ 無P な↑反対語がない
- (B)を次の三種類に分ける。則ち：
 - ① 無P な↑有P な

(表八)

1	(A) 無 + 独立形 P				(B) 無 + 擬独立形 P			
2	a	b	c		b	c		
3	① 無Pな: Pな 名・形動詞	② 無Pなる Pがある Pする 名・形・名動	③ 無Pな 有Pな 名・形動詞	④ 無Pな: SPな PSな 名・形動詞	⑤ 無Pなだけ が一方にあるもの 名・形動詞	⑥ 無Pな: 有Pな 名・形動詞	⑦ 無P(な)する =SP(な)する PS(な)する 名・形動詞	⑧ 無Pなだ+ が一方的にあるもの 名詞・形動詞
4	無P= Pではない	無Pな =Pがない Pしない こと	無Pな =Pがない こと	無Pな =Pがない こと		無P =Pに当る 和語かない	⑥と同じ	
	無生物 無名数 無記名 無条件反射 無制限法貨	無学芸銘別 無無銘分 無無銘策 無無銘稅 無無銘風 無無銘紋 無無銘欲 無無銘札 無許味係 無無意閑 無無意事 無無意識 無無意作 無無意為 無無意別 無無意着 無無意頓	無菇縁害 無無効 無無能 無無用 無無料 無無想 無無性 無無知 無無配 無無念 無無機 無無理 無無数	無塩韻理 無無卵花 無無被經 無無神件 無無条想 無無慈學 無無芸銘 無無銘別 無無趣味	無実造物 無無一文	無声色位 無無為給 無無形限 無無罪心 無無名力 無無神論 無無神人	無視謀汗 無無毛病 無無味常	無言双性 無無垢宿 無無種藏 無無尽島 無無入分 無無痛婉

(表九)

1	形 容 詞				動 詞		
2	①	②	③	④	①	②	③
3	無P: P	無P: 有P	無P:一方 だけがある	無P: SP PS	無P: 有P	無P:一方 だけがある	無P: SP PS
4	無唯炎 無署名 無休息 無足道	無把留 無保償 無無道 無無底 無無毒 無無方 無無骨 無無柱 無無恒 無無機 無無結 無無礼 無無坤 無無名 無無耐 無無期 無無情 無無趣 無無聲 無無教 無無各 無無目 無無味 無無息 無無限 無無數	無比猜敵 無無度 無無稽 無無強 無無賴 無無量 無無聊 無無賴 無無窮 無無上 無無双 無無私 無無畏 無無謂 無無我 無無涯 無無愚 無無堪 無無章 無無知	無帶恥 無無辜 無無故 無無能 無無厭 無無遺 無無異	無礼地 無無法 無無良 無無事 無無頭 無無心 無無意 無無緣	無裨妨 無無奈 無無傷 無無慣 無無於 無無謂 無無所 無無瑕 無無有	無碍於 無無機 無無涉 無無視

② 無Pな↓SPな、SPする
③ 無Pな↓反対語はない
次に中国語の形容詞、動詞、名詞、副詞とその反対語を整理して
ると次のようである。(表九、表十御参照)

1	名 詞			副 詞	
2	①	②	③	①	②
3	無P : P	無P : 有P	無P : 一 方だけあ る	無P : 一 方だけあ る	無P : 有P
4	無産者 無定形 無間 無霜期 無酸油 無核子 無坐力 器 砲	無齒耙 無神論者 無底洞 無根藤 無光焰 無核棗 無核葡萄 無花果 無貨 無理根 無理数 無理式 無理力 無神論 無為 無翼 無影 燈	無柄叶 無吉子 無患火 無明題	無不端 無非怪 無奈乃 無寧任 無如以 無由順 無庸	無疵 無可 無来 由

(表十)

形容詞では反対語が四種類に分けられる。則ち、「P」、「有P」、「反対語はない」、「SPあるいはPS」などである。

名詞では、三種類に分けられる、則ち、「P」、「有P」、「反対語はない」。

副詞では、二種類しか分けられない。則ち、「反対語のない」、「有P」などである。

注：

注一：「P」は形容動詞の語幹である。

注二：「S」は「P」と違った語である。

四、意味から見る日中両語の無のつく語

前に述べたように学研国語大辞典によると、日本語の「無」のつく語は二百語ある。又、アンケートをとってみた結果、その二百語の一百七十語は中国人が見るとすぐ分るが、残りの三十語は中国人が見ても充分に分るとはいえないようだ。同じ漢字でありながら、中国人が見る(よむ)とどういう意味か、なかなか理解できないのは少くない。(表十一を参照)

無季	無駄食い
無口	無駄口
無腰	無駄事
無札	無駄死
無雑	無駄遣い
無残	無花
無試験	無骨
無住	無骨折い
無造作	無飯
無断	無鉄砲
無茶	無頓着
無抵当	無免許
無反	無関
	無粹

(表十一)

その中には「無季、無口、無腰、無札、無試験」などは一寸みたら日本語の意味は中国語の意味と同じではないかと錯覚するが、しかし、字引を引いてみると、その意味がずいぶん違ふと分かる。一一調べてから、次のように考えた。

つまり、漢字は同じであるけれど、日本に伝入されて、日本人は自分の生活環境、背景にあわせるために、日本人の想像力を生かして造った漢語はすでにもとの意味と違うのである。例えば「無季」の「季」という漢字を取ってみよう、

無季： 日本語：季語の入っていない俳句。

中国語：季節がない。

「季」は本来中国語の中には「季節」という意味だが、しかし、日本に入って、日本の特有の物を表す為に、「季」はすでに「季節」という意思になるのである。

ほかの語は大抵、中国人が読んでも、分らない、想像してもなかなか理解できないものである。

五、まとめ

品詞の比較と分類した結果から、次のようなことが分った。

① 日本語の無のつく語の中には名詞が一番多い。

中国語の無のつく語の中には形容詞が一番多い。

② 中国語の無のつく語の中には一番多く借用されるのは形容詞と

名詞である。また、日本語に伝入されてから、名詞として多く使用されるのである。

反対語から見ると案外日中両国の反対語の種類が非常に多いということが分った。しかし、この小論は只分類にとどまり、やや不十分だと思われる。これから、分類された語の中に何か新しい系統があるかどうかもっと深く探究していきたいと思う。

それから、意味から見る日中両国語の無のつく語に対して、私はこう思う。つまり、同じ漢字だから意味上はそんなに違った所はない。しかし、その中ではやはり中国人になかなか理解できない語がある。これは多分、日本人が漢字を学んで使用したり、工夫したりした結果ではないかと思われる。この工夫方法はきつとできるだけ日本人の日本語の構造意識にふさわしいのであろう。また、日本人の地理条件にも、歴史の背景にも関係がある。それで同じ漢字でありながら、その意味が段々中国語の意味と掛け離れていくのである。

参考文献：

- | | | | |
|-------------------------|------------|--------|-------|
| 現代中国語辞典 | 香坂順一著 | 光生館 | 昭和57年 |
| 学研国語大辞典 | 学研出版 | | |
| 国語学論説資料 | 接辞不、無をめぐって | 須山名保子著 | |
| 国語語彙論 | 田中章夫 | 明治書院 | |
| 綜合日華大辞典 | 大新書局 | | |
| 日本語教育における語彙教育的研究 | 陳山龍著 | 鴻儒堂出版社 | |
| 日本語はどうかわれるか | 樺島忠夫 | 岩波書店 | |
| 現代日本語における漢語と和語の音韻構造について | 莊瑞蓮著 | | |
| 中日両語身体語彙の対照研究 | 頼錦雀 | | |